

～拡大ホタテガイ担当者会議開催される～

去る1月17日、オホーツク、宗谷及び根室管内のホタテガイ担当者の会議が網走市で開催されました。これまでこの会議はオホーツク管内担当者だけの情報交換の場でしたが、今回は、水試が行っている試験研究の概要をより幅広く関係の皆さんに知らせたいとの思いから、参集範囲を拡大しての開催となったものです。



会議では、水試が取り組んでいる調査研究部及び加工利用部のホタテガイに関する試験研究8課題の中から、これまでに得られた成果を報告しました。特に、共同研究を行っている北大の工藤准教授外からは、天塩川由来の溶存鉄を含む宗谷暖流水と、栄養塩の豊富なオホーツク

海中冷水との混合によって植物プランクトンが発生する仕組みや、ホタテの餌となる有機懸濁体が表層から10日程で海底に到達することなど最新の知見が報告されました。

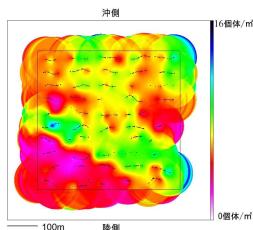
また同じく共同研究を行っている熊本大の戸田教授からは、海底画像を用いたホタテガイ自動判別技術について、底質に応じ異なるアルゴリズムを適用することにより判別精度が向上し実用化に大きく前進したことなど、興味深いお話を伺うことが出来ました。

さらに意見交換の中では、水産普及指導所の中田主任普及指導員から採苗情報の共有化について提案がなされ、

出席者の賛同を得て具体的な作業を進めていくこととなりました。

今回の会議を通じて、改めて我々水試の行っている試験研究が浜のニーズに寄り沿っていることが確認できたと同時に、研究成果を単なる学術レベルにとどめることなく、いかに浜が使える技術や知識にまで磨き上げて行くかが重要であることも再認識できました。朝10時から夕方5時まで、長丁場でしたが大変実りある会議となったことを出席頂いた皆様に感謝すると共に、暖かい会議室を提供して頂いた網走漁協にお礼申し上げます。

(網走水試 等々力)



海底画像からクリキング法により作成したホタテガイ密度図 (一辺は500m)